

動植物プランクトンにおける鳥類を介した長距離分散の検証

動植物プランクトンは湖や池といった水域生態系にほぼ必ず存在し、植物プランクトンは一次生産者として、動物プランクトンは一次生産者と高次消費者とを繋ぐ中間消費者としての重要な機能を持つ。湖や池は周囲を陸地で囲まれており、他の水系との繋がりは限られる。その中で、動植物プランクトンがどのように生息地間を移動するのか、それによりどのように多地点での出現が可能になるのかについては知見が限られている。本研究ではプランクトンが他の生息地に移動する方法、すなわち分散機構の一つとして考えられている鳥類を介した分散の実態を解明する。具体的には野外で水鳥のカワウを捕獲し、身体に付着している動植物プランクトンとその休眠卵や休眠胞子を採集する。併せて、周辺湖沼で動植物プランクトンの採集を行う。これらにより得られた動植物プランクトンの DNA を分析し、系統関係を比較する。この結果から、鳥類を介した分散が本当に発生しているのか、また、どの程度の距離の分散に寄与するのかを明らかにする。

